
自由気ままに恋姫書くよ

ゆっくり R - 9 9

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自由気ままに恋姫書くよ

【Z-ONE】

Z201W

【作者名】

ゆづくじR・99

【あらすじ】

2回目の建替をおこないました。

第一話

「・・・ようやく・・・終わった・・・」

今、「天野裕太」は心身共にボロボロになっていた。
MHP3を（アルバまで）攻略、その後大好きなスターウォーズ（
以後SW）のゲーム「スター・ウォーズ フォースアンリーシュード2
（外国版）」

を買い、プレイし始めてから数カ月・・・

翻訳文の「コピーを片手に分かりにくい英語と戦い、リスニングの難
しさに挫けそうになりつつもSWへの愛を糧によじやくクリアに辿
り着いた。

午前5時だった。

裕太「夕飯・・・いや昼飯食べたつけ？・・・どうでもいいや。も
う寝よ（ブーッブーッ）・・・ん？」

メールが一通届いた。また架空サイトからかと思つて見てみたら・・・

「おめでとうござります。あなたは『いきなり転生プロジェクト』
に選ばれました！もし・・・転生したいのなら一週間後の午前0時
に持つていきたい物を用意してお部屋で起きていてください。」

架空サイトよりも怪しい内容だった。

裕太「・・・なんだこれ？送信アドレスも無いし題名も無い。不思
議（？）だ・・・」

こんなのが来ても普通は真に受けない。
だがしかし……

裕太「ん~・・・できるならしたいし、準備するかな」

真に受けてしまった。多分寝ぼけているのかもしれないが……

一週間後・・・

裕太Side

裕太「はたして本当に来るのか・・・」

午前0時。

とつあえずPSPとDS、ノートパソコン、着替えを持っていくことにした。

しばらくすると・・・

シューーン・・・

目の前にいきなり未来的な感じでもドアが現れた。

? 1 「わが、こいつだよ。」

? 2 「～～～～～！」

プロローグとドアが開き、中からR2-D2とC3POの色違いが
出てきた。

R2は赤でC3POは銀色だ。

裕太「あんたらが迎えかい？」

C3PO「はい。お迎えにあがりました。」

R2「」

裕太「あんたらの主人は未来人的な奴なの？」

C3PO「ん、まあそんなどころですねえ」

裕太「・・・ふう、ん」

C3PO「では行きますか？」

裕太「行かせてくれるならね」

プシュー！

そうして「天野裕太」はドアに入つて行つた

第一話

ドアを通り、出た先は・・・
まんまスター・デストロイヤーのブリッジだった。

裕太「これも雰囲気みたいなやつか？」

C3PO「そんなところです。あなたがこれから行く世界は申し訳ありませんがお教えすることはできません。ですがそのまま行くのは危険ですので身を守る術や物をお渡します。」

裕太「おお。こりゃ御親切にどうも」

もうひとつのは以下の通り。

武器

分離・連結可能な赤ライトセーバー 4本

全てのジェダイ・シスの能力

裕太「ん〜・・・少しづがまま言つていい？」

C3PO「構いませんが。」

裕太「じゃあ・・・」

追加したのは（ ry

容姿変更

詳しく述べはキャラ設定で

ついでにカバンも

4次元ダッフルバッグ

口は＊＊えもんのポケットのよつに広がる。

お供

ガンダム無双の

武者ガンダム

武者ガンダムmk2

騎士ガンダム

裕太「・・・こんなところかな」

C3PO「わかりました。御用意いたします。」

裕太「本当か？すゞ」（もらえるかどうか心配だったんだよね）

C3PO「ではこちらにカプセルに入つてください」

そのカプセルは・・・あのベイダーの瞑想室だつた。

裕太「これで行くの？」

C3PO「はい。ですがまずフォースを使いこなすためにジェダイマスター達に鍛えてもらつてください。では行つてらっしゃい（ドンッ）」

裕太「うわっ！ちょおい！それ先に言ああああああ～～～・・・」

キャラ設定

キャラ設定

オリ主の設定です。

名前 天野裕太

髪の色 黒

暗闇では光を吸収し（ナルガクルガみたいな感じ）、ほとんど見えなくなる。

目の色 黒

こちらは光を反射しない。

服 ジエダイの服

布地は髪と同じ効果を持つ。髪の毛で作ったわけではない。汗を素早く吸収して匂いの元を分解、水分を空気中に発散する効果もある。このおかげでずっと着っていても快適。

実はクローキング機能も付いている（これは自分で改造して付けた）。

強さ ものすごい

いわゆるチートである。そしてもっと凄くなる予定

その他

見た感じは「バイオハザード」のアルバート・ウェスカーになつている。

Tウイルスは入っていない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2201w/>

自由気ままに恋姫書くよ

2011年10月9日14時33分発行